

# 私立大学研究ブランディング事業

## 29年度の進捗状況

学校法人番号	401002	学校法人名	久留米大学		
大学名	久留米大学				
事業名	すこやかな「次代」と「人」を創る研究拠点大学へ ～先端がん治療・研究による挑戦～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	5961人
参画組織	先端癌治療研究センター、大学院医学研究科、医学部、がんワクチンセンター、大学病院、バイオ統計センター、臨床研究支援センター、人間健康学部、大学院心理学研究科				
事業概要	<p>がんペプチドワクチン等のテーラーメイドがん治療の開発普及を推進するとともに、新たな強みとなる潜在的シーズを発掘し、がんの新規治療法や予防法の開発へとつなげるモデルを構築する。</p> <p>同時に、組織の教育研究力強化とPR・コミュニケーション活動の強化を進め、「地域に根ざした先端研究」「地域に根ざした医療」を実践し、地域社会経済の発展・深化及び地方創生に全学を挙げて寄与するもの。</p>				
①事業目的	<p>先端癌治療研究センターを中心に、本学の強みであるテーラーメイドがん治療の確立に向け、テーラーメイドがんペプチドワクチン等の実用化推進と改良・次世代化を進めるとともに、がんの新規診断法や治療法につながるような本学内の研究シーズの発掘と応用展開を進め、学内の資源・人材を戦略的に活用しながら、様々な課題解決に取り組む。</p> <p>ブランディング戦略をとおして、「すこやかな「次代」と「人」を創る大学」というブランドの形成を図る。</p>				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p><b>&lt;研究活動の目標&gt;</b>          プロジェクト1：テーラーメイドワクチンの適応拡大のための臨床データの蓄積・次世代がんワクチンの標的分子の探索方法プロトタイプ動物モデルでの確立。          プロジェクト2：最も奏効率の高い肝臓注化学療法である「New FP」療法の普及・本治療に対しても抵抗性を示す肝がん細胞の形質を明らかにする。          プロジェクト3：潜在的研究シーズ発掘・育成のための暫定運用システムの確立。</p> <p><b>&lt;ブランディング活動の目標&gt;</b>          ・本学のブランドイメージの学内、学外への発信。</p> <p><b>&lt;研究活動の実施計画&gt;</b>          プロジェクト1：①種々のがんに対しテーラーメイドがんペプチドワクチンの医師主導臨床研究を実施する。②がん細胞の遺伝子変異により出現するネオアンチゲン同定法のプロトタイプを動物モデルで確立する。          プロジェクト2：①「New FP」療法を実施できる若手医師養成を開始する。2年間で少なくとも3名養成する。更に、他施設からの若手医師を積極的に受け入れ、「New FP」療法を修得させる。②「New FP」療法により肝がんが臨床的に消失しないし縮小した症例の中で肝切除術を受けた症例を後方的に探索し、臨床試験に組み入れる。切除肝組織内に遺残した肝がん組織及びその周辺組織（がんニッチ）について、既知の幹細胞やがん幹細胞関連蛋白の発現解析を行い、治療抵抗性肝がんの全体像を把握する。          プロジェクト3：学外有識者を含むシーズ発掘・育成チームを組織するとともに、単一講座／部門で実施されている研究シーズの中から発掘・育成するための暫定運用システムを構築する。</p> <p><b>&lt;ブランディング活動の実施計画&gt;</b>          ①研究ブランディング事業ホームページを開設する。②研究成果の公表（プレスリリース、学会発表、大学のホームページ、市民公開講座等）を年1回以上行い国内外に広く発信する。③がん教育・啓発活動としての市民向け大学病院見学会、市民公開講座（各年1回以上）、サイエンス・カフェ（年10回程度）等を開催する。④医療従事者向け教育・普及活動を目的とした研修会を開催（年2回以上）する。⑤患者・患者家族への先端がん医療等に関する情報提供・相談活動（年5回以上）を実施する。⑥がん教育・啓発活動としての高校生向け出前授業（年1回以上）を実施する。⑦本事業の独自色を各種媒体（入試案内（年1回発行）、大学広報誌（年4回発行）、研究ブランディング事業ホームページ、高校訪問時の資料等）でアピールする。⑧研究者・研究室をリレー方式で大学のホームページ等において紹介する。⑨新聞・テレビ等を活用した情報発信を行う。⑩学内シンポジウムを開催する（年1回以上）</p>				

<p><b>③ 29年度の事業成果</b></p>	<p><b>&lt;研究活動の成果&gt;</b>  プロジェクト1：  ① 従来からの臨床試験に加え、本年度新たに2件の臨床試験を開始した。②マウスの悪性黒色腫及びリンパ腫細胞についてゲノム解析を行い、遺伝子変異を多数同定した。  プロジェクト2：  ① 「New FP」療法の基礎となる血管造影検査・治療のトレーニングを、医師1名に向けて開始、「New FP」療法適応患者を病棟で受け持ちつつ、本治療の習得にあたっている。  ② 「New FP」療法後に肝切除術を受けた症例のデータベース作成の倫理委員会への申請と登録開始準備を行った。③ 「New FP研究会」を5月26日に久留米大学で開催することを決定した（全国13施設が参加予定）。  プロジェクト3：  研究実務者会議のもとにチームを編成し、公募要項を策定し、30年度シーズ探索対象研究の学内公募を開始した。30年度は2件採択予定。</p> <p><b>&lt;ブランディング活動の成果&gt;</b>  ① ホームページ：平成30年1月に開設した。  ② 研究成果の公表：（ア）がん転移特異的ペプチドの発見をプレスリリースし、西日本新聞と毎日新聞に掲載された。（イ）先端癌治療研究センター市民公開講座を開催した。（ウ）国内学会、国際学会および英文査読誌に論文多数発表。リサーチレポートおよび先端癌治療研究センターホームページにも30年9月頃公開予定。  ③ がん教育・啓発活動：（ア）がん集学医療研究会セミナーを2回開催した。（イ）腫瘍センター主催市民公開講座を1回開催した。（ウ）カフェで学ぼう“がんのこと”を10回開催した。  ④ 医療従事者向け研修会：医師へのレクチャーを実施するとともに、コメディカルへの研修会を1回実施した。  ⑤ 患者・家族への医療情報提供・相談：腫瘍センター主催“がん教室”を11回開催した。  ⑥ 高校への「がん教育」出前授業：福岡県教育庁と連携し、県立高校92校に30年度募集案内を送付した。  ⑦ 本事業のアピール：（ア）31年度大学・入試案内、大学広報誌に掲載した。（イ）研究ブランディング事業ホームページを充実させた。（ウ）高校訪問時の本事業活動資料を配布した。  ⑧ 研究者・研究室をリレー方式で本事業ホームページにおいて紹介した。  ⑨ メディアによる情報発信：本事業採択について記者発表を行い、西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞に掲載された。  ⑩ 学内シンポジウムの開催：3月9日に学内シンポジウムを開催した。</p>
<p><b>④ 29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p><b>(自己点検・評価)</b>  研究活動においては、すべてのプロジェクトが計画どおり実施された。また、申請書記載の計画に加え、文医融合分野の新領域研究を開始するための文系と医系研究者による継続的な意見交換会がスタートした。  ブランディング活動においては、実施計画10項目中、9項目が実施された。  「がん教育・啓発活動としての高校生向け出前授業」については、未実施であるが、次年度実施に向け、募集案内を全県立高校に発送した。</p> <p><b>(外部評価)</b>  研究活動とブランディング活動のそれぞれについて外部評価委員会（研究事業外部評価委員会・大学ブランディング評価会議）を開催した。研究活動に関しては概ね順調に進んでいるとの評価に加え今後の活動に対する高い期待が寄せられた。  ブランディング活動に関しては、がん教育や啓発活動、医療従事者向け教育普及活動は高い評価を受けた。一方で、研究成果の公表について研究成果を一般に広く発信する学内体制の強化やプレスリリースのあり方の検討などの課題が指摘された。</p>
<p><b>⑤ 29年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>《研究活動》  研究費、ポスドク人件費、外部評価委員謝金・旅費及び研究設備(N-Counter)  《ブランディング活動（広報・普及）》  市民公開講座・セミナー等の開催諸経費、ホームページ作成費・維持費</p>